

## ▼セフピロム硫酸塩静注用 [注] &lt;2021.3 販売中止&gt;

【重要度】★★ 【一般製剤名】セフピロム硫酸塩 (CPR) cefpirome sulfate 【分類】セフェム系抗生物質

【単位】▼0.5g・▼1g/V

【常用量】1~2g/日 [最大 4g/日]

【用法】1日2回 [~4回] ■生食またはブドウ糖注射液に溶解

【透析患者への投与方法】初回 1g/日, 2日目を降 0.5g/日 [HD日はHD後に投与] (5)

【その他の報告】透析後に 2g 投与 (トラフ値は 12.2  $\mu$ g/mL でピーク値は 99.6  $\mu$ g/mL) 透析後に 1日投与量の 1/2 を補給する (11)

【PD】25%に減量し 12時間おきに投与 [初回投与量は減量しない] (11)

【CRRT】CHFでのPKデータ (Banyai M, et al: Clin Pharmacol Ther 67: 368-72, 2000 PMID: 10801245)

【保存期CKD患者への投与方法】Ccr 50mL/min以上: 減量の必要なし, Ccr 10~50mL/min: 初回 1g/日, 2日目を降 0.5gを1日2回, Ccr<10mL/min: 初回 1g/日, 2日目を降 0.5g/日 (5)

【その他の報告】高齢者には1回 0.5gから開始 (1)

【特徴】第3世代セフェム注射薬。既存のセフェム系抗生物質に比し, 抗菌力が強く抗菌スペクトルが広い (シェードモナス属も含む)。

【主な副作用・毒性】ショック, アナフィラキシー, SJS, TEN, PIE 症候群, 血球減少, 肝障害, 腎障害, 大腸炎, 発熱, 発疹, 血液凝固障害 (VK欠乏に関連), 間質性肺炎など

【安全性に関する情報】中毒症状は, 意識障害, 不随意運動, 痙攣など (1)

【モニターすべき項目】出血時間, プロトロンビン時間, 便検査 (偽膜性大腸炎をチェック)

【吸収】経口吸収はされない (11)

【F】PD患者における腹腔内投与時のFは84% (Clin Pharmacol Ther 54: 395-401, 1993) 筋注でのFは90~100%で吸収は速い (11)

【tmax】1.6~2.3hr [im] (11)

【代謝】ほとんど代謝されない (1, 11)

【排泄】ほぼ糸球体濾過により 96%が尿中に排泄されその 98~99%が未変化体として排泄 (11) 約 70~90%は 12時間以内に尿中に回収され 4%が糞便中に排泄 (11)

【CL】100~135mL/min (11) 主に糸球体ろ過により 90%が尿中に回収 (1) 【腎CL】65.3~111.7mL/min (11) 【非腎CL/総CL】10% (10)

【t1/2】2hr (10) 1.4~2.3hr (11) 【透析患者の t1/2】9.35hr (Veys N, et al: Clin Pharmacol Ther 60: 645-50, 1996) 14.5hr (11) 15~25hr (1) PD患者で 15hr以上 (11)

【蛋白結合率】8.2~11.7% [主に Alb] (11) 10% (1)

【Vd】16.5L/man (11)

【分布】速やかに体全体に分布するが, 他のセフェム同様血液脳関門には通過しにくい。脳脊髄液中の t1/2 は血漿 t1/2 の 4~5 倍に延長 (11) 膿瘍への移行性には個人差が大きい (Sauer mann R, et al: Eur J Clin Pharmacol 68: 1419-23, 2012 PMID: 22441316)

【MW】612.66

【透析性】4hrHDで48%除去 (Veys N, et al: Clin Pharmacol Ther 54: 395-401, 1993) PS膜を用いた 3.5hrのHDで62.3%除去され, HD時半減期 2hr (Thalhammer F, et al: Clin Pharmacol Ther 60: 645-50, 1996 PMID: 8988066) 透析時半減期 4.5hrと除去される (1) 【PDの透析性】投与量の 12%のみが除去 (11)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない

【薬物動態】嚢胞性線維症での PPK 解析 (Bulitta JB, et al: Antimicrob Agents Chemother 55: 2927-36, 2011 PMID: 21402834) 重症感染症での PPK 解析 (Roos JF, et al: Intensive Care Med 33: 781-8, 2007 PMID: 17342515)

【O/W係数】低い (11) 0.002 [1-オクタノール水系] (1) 【pKa】2.5, 2.8 (1)

【相互作用】利尿剤: 腎障害増強の可能性 (1)

【備考】溶解補助剤として炭酸Naを含有し, 溶解時に炭酸ガスを発生するため減圧バイアルとなっている

【更新日】20210405

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。